

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスつむぎ		
○保護者評価実施期間	令和7年1月15日		～ 令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	令和7年1月16日		～ 令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家庭的な環境と部屋数の多さがあり、子どもの状態に応じて療育環境を選ぶことができる。 キッチンを利用したのクッキングや、お風呂を利用したの入浴指導など、個別のニーズに対応することができる。	1対1対応が必要な児童や個室で静かに過ごしたい児童の希望に合わせて、部屋を選択して支援することができる。 クッキングを毎月1～2回企画し、その企画内容は子どもが食べたいものなど希望を聞いて取り入れ、参加意欲を高めるようにしている。	自立に向けた支援として、クッキング以外に入浴、洗濯など社会に出るために必要なスキルを身に付けられるよう取り組む。
2	年齢に応じて療育時間が17時半までの1部と、19時までの2部に分けている。	実年齢、発達年齢に応じた集団活動を計画している。例えば、SST(ソーシャルスキルトレーニング)において低学年からの1部では基本的な礼儀やマナーを主な課題とするに対して、思春期を迎える2部の子どもには自己表現、悩みの相談を共有して意見交換したりしている。	1部では、集団療育のさらに多岐にわたったプログラムを立案する。 2部については、社会に出るための準備として、生活訓練を充実させる。 材料費を計算してクッキングの計画を立てて実施したり、洗濯の仕方、干し方なども実施する。
3	児童に当日の担当職員を定め、責任を持った細やかな支援を提供している。	重度の児童には1対1、中度・軽度の児童には児童2～3人に対して1名の職員が担当している。	療育に入る前に担当スタッフがその日の担当児童の個別支援計画書を確認し、支援経過記録を支援計画の内容にそって記録するようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員数が多いため、毎日昼礼にて情報を伝達しているが、従業員全体への周知が不十分になっていることがある。	出勤日数が少ない非常勤の従業員が多く、日々の口頭伝達では十分に行き届いていない可能性がある。 昼礼の記録を取っていない。	昼礼の記録を連絡ノートに取り、従業員全員が伝達事項を確認し、確認サインをする。 急ぎの伝達事項はグループLINEを使用して一斉に配信する。
2	施設内研修は定期的実施しているが、施設外研修の参加機会が少ない。特に非常勤職員の外部研修機会が少ない。	契約勤務時間内での外部研修の機会を作ることができていない。	研修を公費研修と本人の希望があれば参加できる私費研修とに分けて、研修機会を多く提供する。 公費の外部研修を定期的に企画し、参加も直接処遇職員が全員公平に機会が与えられるよう計画する。 外部のWEB研修があれば、事業所内で参加できるようにする。
3	地域の方を事業所に招待することができていない。	地域の外部の方が事業所に入ってきて子どもたちと関わるにあたり、子どもがどのような反応を示すか不安がある。 事業所自体が日々の療育に追われていて、外部の方を招待する余裕がない。	まずは工作やバルーンアートなど個人のボランティアの方を募集し、ボランティアの場として事業所を提供すると同時に、子どもたちが職員以外の外部の方との交流に慣れていけるよう取り組む。